

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳥取大学・地域学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | 子ども理解と発達相談   |
| 教員名（専門分野）                   | 小林 勝年 （教育臨床心理学）  |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法  |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 110名   |
| 対象課程・対象学年                   | <input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 3年生対象  |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回：子どもを理解するということ</p> <p>第2回：発達相談とは</p> <p>第3回：学校における相談活動の意義</p> <p>第4回：カウンセリングの理論</p> <p>第5回：カウンセリングの技能</p> <p>第6回：発達支援</p> <p>第7回：問題行動の意味</p> <p>第8回：非行の心理</p> <p><u>第9回：いじめの実態</u></p> <p><u>第10回：いじめの心理</u></p> <p><u>第11回：いじめの対応</u></p> <p>第12回：不登校の実態</p> <p>第13回：不登校の心理</p> <p>第14回：不登校の対応</p> <p>第15回：発達障害の理解と支援</p> |

**【授業内容】**

第9回：いじめの実態

各種統計資料を参考にいじめの実態について解説する。また面接結果をもとに実態と統計資料が乖離している問題点を指摘する。

第10回：いじめの心理

中井久夫，森田洋司のいじめについての理論を中心に様々ないじめ研究を紹介する。そして、いじめる子ども・いじめられる子どもの心理特性や集団心理について解説する。

第11回：いじめの対応

オルウェーズの提案などを参考にこれまでのいじめ対応策について総括し、求められる対応策について紹介する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳥取大学・地域学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | ガイダンス論   |
| 教員名（専門分野）                   | 河合 務（教育思想）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>・生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法   |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 100名   |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象  |
| 授業計画<br>(いじめに該当する箇所<br>に下線) | <p>第1回：教職と生徒指導・進路指導</p> <p>第2回：生徒指導と懲戒</p> <p>第3回：「叱る」と「褒める」</p> <p>第4回：学級における教師・生徒関係</p> <p><u>第5回：いじめ（1）</u></p> <p><u>第6回：いじめ（2）</u></p> <p>第7回：問題行動（1）</p> <p>第8回：問題行動（2）</p> <p>第9回：生徒指導の校内体制</p> <p>第10回：諸外国の生徒指導</p> <p>第11回：学校から仕事への移行（1）</p> <p>第12回：学校から仕事への移行（2）</p> <p>第13回：フリーター問題</p> <p>第14回：ニート問題</p> <p>第15回：キャリア教育</p> |

## 【授業内容】

### (第5回:いじめ(1))

#### ① いじめの定義と概念

文部科学省やいじめ研究における「いじめ」の定義や概念について、その変化も含めて概説する。暴力、金品の要求、「使い走り」の強要、暴言、無視、仲間はずれ、メールの使用など多岐にわたるものであることに留意する。

#### ② いじめに関する報道の紹介

いじめに関しては数々の報道があり、それによっていじめ事案の概要や展開を知り、教師やクラスメートとしての対応の問題点を検討する。

#### ③ いじめ自殺事件の事例

いじめが深刻化し自殺にまで至った事件（1986年の東京都・中野富士見中学の事件、1994年の愛知県・西尾市の中学の事件、等）の経過を辿り、教師やクラスメートとしての対応の問題点を検討する。

#### ④ いじめを長期化・重大化させない姿勢の重要性

いじめは大人社会にも存在するが、教職を目指す立場としては、いじめを長期化・重大化させないような対応、不登校や自殺に至るような深刻な事態を避けようとする姿勢が重要であり、そのための具体的な対応について先行事例を紹介しつつ考察する。

#### ⑤ いじめ対策の事例の紹介

いじめを未然に防ぐための学級ルールづくりの事例や、いじめアンケートの実施例など、いじめ対策の事例について、その有効性を検討する。

### (第6回:いじめ(2))

#### ① いじめに関する研究の紹介

いじめの「四層構造」論、いじめ＝「身分秩序」論など、いじめに関する先行研究の展開を紹介する。

#### ② いじめに関する政府・教育行政の取り組み

2011年の滋賀県・大津市のいじめ事件に対する教育委員会や文部科学省の対応、事件後新たに遂行された取り組みを紹介し、いじめ対応の現在と今後について考察する。

#### ③ いじめ概念の掘り下げ

いじめ問題を扱った小説などを素材として、いじめ概念をさらに掘り下げ、受講生が今後、教職についた場合に生かすことができる有効ないじめ対策や配慮すべき点について検討する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳥取大学・地域学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | 子どもの精神保健   |
| 教員名（専門分野）                   | 関 あゆみ（小児神経学）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | 必修・ <span style="border: 1px solid black;">選択</span> ・選択必修・その他（保育コースは必修）   |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 教科又は教職に関する科目   |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 15名  |
| 対象課程・対象学年                   | <span style="border: 1px solid black;">学部</span> ・修士・教職大学院 2年生対象   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回 精神保健とは</p> <p>第2回 子どもの精神発達（周産期～乳幼児期）</p> <p>第3回 子どもの精神発達（学童期～思春期）</p> <p>第4回 排泄・睡眠障害と習癖</p> <p>第5回 発達障害①（知的障害、学習障害）</p> <p>第6回 発達障害②（注意欠陥多動性障害）</p> <p>第7回 発達障害③（広汎性発達障害）</p> <p>第8回 心身症</p> <p>第9回 精神科的疾患（うつ、不安神経症、摂食障害など）</p> <p>第10回 児童虐待①</p> <p>第11回 児童虐待②</p> <p>第12回 身体疾患と心の健康</p> <p><u>第13回 学童期・思春期の問題行動①（いじめ、不登校）</u></p> <p>第14回 学童期・思春期の問題行動②（非行とその対応）</p> <p>第15回 関係機関の利用と連携</p> |

**【授業内容】**

第13回 学童期・思春期の問題行動①（いじめ、不登校）

スクールカウンセラー経験のある心理士を非常勤講師として招き、いじめや不登校の背景にある学童期・思春期の精神発達上の課題、いじめをとりまく個人と集団のダイナミズムについて学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（島根大学・教育学部）

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 臨床教育相談論  |
| 教員名（専門分野）               | 三嶋 朋子（臨床心理学）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分    | <input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ       | 教職に関する科目<br>生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目   |
| 単位数・受講者数                | 2単位 ・ 180名   |
| 対象課程・対象学年               | <input type="checkbox"/> 学部・ <input type="checkbox"/> 修士・ <input type="checkbox"/> 教職大学院 2年生対象   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所に下線） | <p><u>第1回：現代社会の子ども像とその理解</u></p> <p><u>第2回：子どもの危機とは何か ー心理臨床的発達理解について</u></p> <p><u>第3回：“相談”とは何か ーロジャーズの来談者中心療法</u></p> <p><u>第4回：学校における相談とその課題</u></p> <p>第5回：相談としての“あそび” ー遊戯療法について</p> <p>第6回：“連携”“協力”“共通理解”の意味</p> <p><u>第7回：スクールカウンセラー活動からみる学校</u></p> <p>第8回：まとめ</p> <p>（ 各回2講義ずつ 第8回のみ1講義 ）</p> |

## 【授業内容】

### (第1回：現代社会の子ども像とその理解)

現代の子どもたちの臨床像を具体的に呈示し、理解を深める。具体例として以下の事例を挙げている。

- 不登校
- 友だち集団の形成
- いじめ
- 反社会的行動
- コミュニケーション力の苦手さ
- 保護者対応

友だち集団の形成・いじめ・コミュニケーション力の苦手さの中でいじめ問題を扱っている。

### (第2回：子どもの危機とは何か ー心理臨床的発達理解について)

集団的視点から臨床的に「個」の視点からの子ども理解を深める。いじめを行う子ども、いじめられる子ども、それぞれの子どもの焦点をあて、善悪だけでなく“一人の人間”理解を行っていくための発達の基礎知識、その周辺で理解に必要な情報収集について講義を行っている。

### (第4回：学校における相談とその課題)

学校でいじめが表面化した場合の対応の多様性について講義を行っている。事情を聞く際の注意事項・配慮事項、“心的現実”と“事実”の関係、子ども・保護者が求めているものをどう受け止めていくかについて事例を挙げる中で理解を深めている。

### (第7回：スクールカウンセラー活動からみる学校)

スクールカウンセラーの相談活動において出会ったいじめの在り方も含めて講義を行っている。最近では、発達障害をもつ子どもたちが感じる被害感の強さ、他責的行動など話合いでの解決の困難さを伝えている。



I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（島根大学・教育学部）

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 授業科目名                       | 生徒指導論・進路指導論   |
| 教員名（専門分野）                   | 岩宮 恵子（臨床心理学）  |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）   |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 教職に関する科目<br>生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目  |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 178名  |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回：生徒指導とは何なのか</p> <p><u>第2回：「いじめ」事象における生徒指導の在り方 その1</u></p> <p><u>第3回：「いじめ」事象における生徒指導の在り方 その2</u></p> <p>第4回：生徒指導における記録とその取り扱い</p> <p><u>第5回：生徒同士の人間関係のトラブルと生徒指導</u></p> <p>第6回：生徒指導面接における基本的な応答</p> <p>第7回：進路指導の基本</p> <p>第8回：生徒本人の特性と進路指導 その1</p> <p>第9回：生徒本人の特性と進路指導 その2</p> <p>第10回：保護者の希望と進路指導 その1</p> <p>第11回：保護者の希望と進路指導 その2</p> <p>第12回：生徒指導の実際（事例を通じて：万引き・恐喝）</p> <p>第13回：進路指導の実際（事例を通して：進路決定困難例）</p> <p><u>第14回：事例の理解（いじめ事例に対する理解と対応）</u></p> <p>第15回：まとめ</p> |

## 【授業内容】

(第2回：第3回、第5回)

どういったことを「いじめ」と捉えるのか、それが人間関係のトラブルの範囲として考えられるのか、そうではなく、暴行や恐喝といった犯罪に属するものなのかという問題について理解するために、具体例を出して、レポートを書いてもらっている。

子どもの人権を脅かす暴力の問題に関する現状について講義を行い、子どもを暴力から守るための倫理的意識について理解を深め、加害的立場、被害的立場それぞれに対する、事情を聞く際の注意事項や配慮事項、また、保護者への対応についても事例を挙げながら理解を共有している。

(第14回：事例の理解（いじめ事例に対する理解と対応）

いじめに対する支援事例をもとに講義を行い、ディスカッションを行っている。被害児童、加害児童、及びその家族への支援、また、教師に対するコンサルテーションについて、理解を深める。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（島根大学・教育学部）

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 授業科目名                       | 思春期心理臨床事例研究   |
| 教員名（専門分野）                   | 岩宮 恵子（臨床心理学）  |
| 教員の免許状取得のための<br>必修・選択の区分    | 必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上<br>の位置づけ       | _____   |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 30名   |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 1・2年生対象   |
| 授業計画<br>(いじめに該当する箇所<br>に下線) | <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：思春期における不登校事例1</p> <p>第3回：思春期における不登校事例2</p> <p><u>第4回：思春期におけるいじめ事例1（女子の場合）</u></p> <p><u>第5回：思春期におけるいじめ事例2（男子の場合）</u></p> <p>第6回：思春期に精神症状を呈した事例1</p> <p>第7回：思春期に精神症状を呈した事例2</p> <p>第8回：虐待が思春期心性に及ぼす影響1</p> <p>第9回：虐待が思春期心性に及ぼす影響2</p> <p>第10回：中学校における学級崩壊事例1</p> <p>第11回：中学校における学級崩壊事例2</p> <p>第12回：思春期と発達障害1</p> <p>第13回：思春期と発達障害2</p> <p>第14回：中学校における相談室・保健室登校事例</p> <p>第15回：まとめ</p> |

**【授業内容】**

(第4回：いじめ事例1／第5回：いじめ事例2)

担当教員が実際に経験した事例の中から、学校個人が特定されないように配慮した形で事例を院生に呈示し、いじめをする側、される側の心理的な背景についての理解を深めている。



## 【授業内容】

(第14回：架空事例の検討)

5行程度の短い情報提供による架空事例をいくつか呈示し、その事例理解を深めるために必要な情報などを検討、子ども理解を共有し、対応の可能性についてグループディスカッションを行う。架空事例の中にいじめの課題も含まれている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（島根大学・教育学部）

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 授業科目名                       | 健康教育学   |
| 教員名（専門分野）                   | 西村 覚（学校保健）  |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）   |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 教科に関する科目<br>学校保健（小児保健及び精神保健を含む）   |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 26名   |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生以上対象   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>学校保健の概論から各論へと学習を進めます。具体的な内容は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の考え方</li> <li>2. 学校保健の意義と目的</li> <li>3. 学校保健の歴史</li> <li>4. 学校保健の行政と制度</li> <li>5. 学校保健の構造と内容</li> <li>6. 学校保健関係職員</li> <li>7. 学校保健組織活動、学校保健安全計画</li> <li>8. 保健指導</li> <li>9. 健康観察・相談</li> <li>10. 健康診断</li> <li>11. 児童生徒の発育発達</li> <li>12. 児童生徒の健康障害とその指導</li> <li>13. <u>精神の健康</u></li> <li>14. 学校環境衛生</li> <li>15. 学校給食</li> <li>16. 試験</li> </ol> |

## 【授業内容】

(第13回：精神の健康)

児童・生徒の精神的健康に関わる問題の実態の中で、教育現場で教師が会う問題の一つとして太く公などと共に扱う。テキスト「学校保健ハンドブック」の内容に基づいて、いじめの定義及び発生の実態について理解すると共に基本的ないじめへの対応の方法を確認する。



I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岡山大学・大学院教育学研究科）

|                             |                        |                                 |
|-----------------------------|------------------------|---------------------------------|
| 授業科目名                       | 生徒指導論Ⅰ（教育相談，進路指導を含む）   |                                 |
| 教員名（専門分野）                   | 安藤 美華代（臨床心理学）          |                                 |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | 必修・選択・選択必修・その他（ ）      |                                 |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 生徒指導，教育相談及び心理指導等に関する科目 |                                 |
| 単位数・受講者数                    | 2 単位 ・ 90 名            |                                 |
| 対象課程・対象学年                   | 学部・修士・教職大学院 2 年生対象     |                                 |
| 授業計画<br>(いじめに該当する箇所<br>に下線) | 回                      | 講義                              |
|                             | 1                      | 生徒指導について                        |
|                             | 2                      | 生徒指導の意義と原理                      |
|                             | 3                      | 教育課程と生徒指導                       |
|                             | 4                      | 生徒の心理と生徒理解                      |
|                             | 5                      | 学校における生徒指導体制                    |
|                             | 6                      | 教育相談                            |
|                             | 7                      | 生徒指導の進め方                        |
|                             | 8                      | 心理・行動上の課題の理解と対応：喫煙・飲酒・非行        |
|                             | 9                      | 心理・行動上の課題への理解と対応：いじめ(身体・言語・間接的) |
|                             | 10                     | 心理・行動上の課題への理解と対応：いじめ(ネット上)      |
|                             | 11                     | 心理・行動上の課題への理解と対応：不登校            |
|                             | 12                     | 心理・行動上の課題への理解と対応：心身の不適応         |
|                             | 13                     | 心理・行動上の課題への理解と対応：発達に関する課題       |
|                             | 14                     | 進路指導                            |
|                             | 15                     | 総括                              |
|                             |                        | ワーク[心理教育“サクセスフル・セルフ”]           |
|                             |                        | <u>心理教育“サクセスフル・セルフ”の意義</u>      |
|                             |                        | <u>友達関係構築 1</u>                 |
|                             |                        | <u>自分らしく生きよう</u>                |
|                             |                        | <u>自分を好きになろう</u>                |
|                             |                        | <u>友達関係構築 2</u>                 |
|                             |                        | <u>困難な状況での対人関係</u>              |
|                             |                        | <u>人間関係を磨こう 1</u>               |
|                             |                        | <u>人間関係を磨こう 2</u>               |
|                             |                        | <u>人間関係を磨こう 3</u>               |
|                             |                        | <u>問題への対処と解決 1</u>              |
|                             |                        | <u>問題への対処と解決 2</u>              |
|                             |                        | <u>問題への対処と解決 3</u>              |
|                             |                        | <u>意思決定</u>                     |
|                             |                        | <u>ストレスと自己コントロール</u>            |
|                             |                        | <u>実践発表</u>                     |

## 【授業内容】

(第9回：講義[心理・行動上の課題への理解と対応：身体・言語・間接的いじめ])

身体的・言語的・間接的いじめについて、深刻さの実態，関連する心理社会的要因，対応について講義を行う。さらに，事例を通して，見立てと対応について理解を深める。

(第10回：講義[心理・行動上の課題への理解と対応：ネット上のいじめ])

ネット上のいじめについて，深刻さの実態，関連する心理社会的要因，対応について講義を行う。さらに，事例を通して，見立てと対応について理解を深める。

(第1回～第15回 ワーク[心理教育“サクセスフル・セルフ”])

児童生徒向けに小中学校で実践が行われているいじめ・暴力行為等の生徒指導上の問題を予防するための心理教育“サクセスフル・セルフ”を体験的に学習する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岡山大学・教育学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | 生徒指導論 I（教育相談，進路指導を含む）①   |
| 教員名（専門分野）                   | 古市 裕一（教育心理学）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目  |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 150名   |
| 対象課程・対象学年                   | <input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 2年生対象  |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回：生徒指導の意味，内容と教育課程への位置づけ</p> <p>第2回：生徒理解（1）：生徒理解へのアプローチの仕方</p> <p>第3回：生徒理解（2）：生徒理解のための方法</p> <p>第4回：生徒理解（3）：心理検査</p> <p>第5回：教育相談（1）：教育相談の意義</p> <p>第6回：教育相談（2）：カウンセリングの理論・実際</p> <p>第7回：教育相談（3）：相談面接のすすめ方ー傾聴，身体的かかわりなどー</p> <p>第8回：教育相談（4）：教育相談の体制と校内連携，専門機関との連携など</p> <p>第9回：児童生徒の問題行動（1）：概説</p> <p><u>第10回：児童生徒の問題行動（2）：いじめの実態・内容など</u></p> <p><u>第11回：児童生徒の問題行動（3）：いじめの動機・対応法など</u></p> <p>第12回：児童生徒の問題行動（4）：不登校</p> <p>第13回：進路指導（1）：進路指導の歴史と基礎理論</p> <p>第14回：進路指導（2）：進路指導の方法</p> <p>第15回：進路指導（3）：キャリア教育</p> <p>第16回：定期試験</p> |

**【授業内容】**

(第10回：児童生徒の問題行動(2)：いじめの実態・内容など)

いじめの意味・定義，日本におけるいじめ問題の実態，最近のいじめの特徴，いじめの形態について，各種の調査結果や研究成果等に言及しながら講述している。

(第11回：児童生徒の問題行動(3)：いじめの動機・対応法など)

いじめの動機，いじめの構造，いじめの早期発見，いじめへの対処にかかわる問題などについて，各種の調査結果や研究成果等に言及しながら講述している。



**【授業内容】**

(第7回 子どもの抱える問題 2 (いじめ))

いじめ問題に関し、定義、特徴、データ、および理論を紹介する。

DVD を見て、いじめ問題の予防について考える。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（広島大学・教育学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | 教育相談   |
| 教員名（専門分野）                   | 大塚 泰正（臨床心理学）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 教職に関する科目第四欄<br>生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法  |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 100名   |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象  |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | 第1回：教育相談概論<br>第2回：教育相談と生徒指導<br>第3回：カウンセリングの理論と方法<br>第4回：学校と地域の連携<br>第5回：精神障害<br>第6回：発達障害<br>第7回：不登校<br><u>第8回：いじめ</u><br>第9回：非行，暴力<br>第10回：学級崩壊<br>第11回：保護者との関わり方<br>第12回：予防的・開発的教育相談<br>第13回：キャリア教育<br>第14回：教師のメンタルヘルス<br>第15回：まとめと総合討論 |

## 【授業内容】

(第8回：いじめ)

いじめの定義の変遷について解説し、その後文部科学省の調査データに基づくいじめの動向を紹介する。「生徒指導提要」をテキストとして用い、いじめが発生・深刻化するメカニズムを「加害者」「被害者」「仲裁者」「観衆」「傍観者」の枠組みから解説する。いじめが発生した場合の対応方法、教師としての基本的な態度を紹介し、学校内における連携の取り方、本人や保護者との連携方法について解説する。また、いじめの発生を予防するための取り組みについても紹介する。発達心理学あるいは臨床心理学的に、いじめが発生する原因となる攻撃性（怒り）についても解説し、いじめに至るまでのメカニズム、特に思春期における発達の課題などについても解説する。



I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山口大学・教育学部）

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 授業科目名                       | 教職概論  |
| 教員名（専門分野）                   | チーム制での運営 村上 清文（理科教育）他、学部准教授 5 人   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）   |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 教職の意義等に関する科目<br>・教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。）、進路選択に資する各種の機会の提供等   |
| 単位数・受講者数                    | 2 単位・240 名（養成系・非養成系の 2 講座開講）  |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 1 年生対象（前期）  |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第 1 回：オリエンテーション、指導講話（学部長）</p> <p>第 2 回：教職・学校現場を知る①（学校、教育制度、教員）</p> <p>第 3 回：教職・学校現場を知る②（学習指導、授業づくり）</p> <p>第 4 回：教職・学校現場を知る③（生徒指導、人間関係づくり）</p> <p>第 5 回：教職・学校現場を知る④（学校運営・管理、機関連携）</p> <p>第 6 回：現職教員との座談会に向けて①（オリエンテーション）</p> <p>第 7 回：現職教員との座談会に向けて②（グループ協議）</p> <p>第 8 回：現職教員との座談会</p> <p>第 9 回：現職教員との座談会</p> <p>第 10 回：現職教員との座談会を終えて（グループ協議）</p> <p>第 11 回：現職教員との座談会から学んだこと（全体発表会）</p> <p>第 12 回：教職志望学生としての取組①（教育実習）</p> <p>第 13 回：教職志望学生としての取組②（協働型教職研修）</p> <p>第 14 回：教職志望学生としての取組①（教職キャリアの設計）</p> <p>第 15 回：授業のまとめ、振り返り</p> |

## 【授業内容】

(第4回：教職・学校現場を知る③ 生徒指導、人間関係づくり (指導する側の目線に立って))

### 1 子どもたちと関わって (教員、教育関係者として感じること)

#### (1) 子どもたちの健全育成上の課題

- ・問題行動の背後に潜むもの
- ・教員、教育関係者としての構え

### 2 学校教員として、子どもの健全育成にどう立ち向かうか、貢献するか

#### (1) 生徒指導とは ～生徒指導という言葉の正しく理解する～

- ・生徒指導の規定 (「生徒指導提要」「生徒指導資料」等)

- ・生徒指導の内容

#### (2) 学校教員としての子ども理解 ～子どもを多角的・多面的に見ること～

- ・いじめ、不登校、暴力、問題行動、少年非行等の現状

- ・現代の子どもたちの課題といじめ、不登校、問題行動等の関係  
自信喪失、不安、孤独、絶望等の感情  
経験不足、人間関係の低下  
大切な他者の不在、関係づくりへの不安等

- ・生徒指導の柱として

- ① 人としての成長、自立を支える基本的な生活習慣の確立やモラル等を指導する
- ② 一人ひとりの子どもを認め、肯定的、支持的に支える  
自尊感情、自己肯定感を高めること  
夢、希望、目標ややる気を持たせること
- ③ 集団への所属感、中での存在感を感じさせ、集団の中で、集団と共に伸ばす  
人間関係づくりの経験を積ませ、豊かな人間集団、学習集団をつくる

### 3 指導される側から指導する側へ、伸ばされる側から伸ばす側へ (教員の視点に立つ)

#### (1) 子どもを認め、支え、励まし、高めることが基本 → 信頼関係の中でこそ指導は成立する

#### (2) 豊かな人間関係の中で子どもを育てることの意味 → 弱さを見せる部分にアプローチする

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山口大学・教育学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | 教育相談・進路指導  |
| 教員名（専門分野）                   | 大石 英史（臨床心理学）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | <input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法、進路指導の理論及び方法  |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 180名   |
| 対象課程・対象学年                   | <input type="checkbox"/> 学部・ <input type="checkbox"/> 修士・ <input type="checkbox"/> 教職大学院 3年生対象（前期）   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回：教育相談が目指していること</p> <p>第2回：教育援助と子ども理解の方法</p> <p>第3回：不登校の実態と背景理解</p> <p>第4回：不登校支援の実際</p> <p>第5回：発達障害の子どもたちと支援の現状</p> <p>第6回：発達障害の子どもたちへの支援の実際</p> <p><u>第7回：いじめ問題と指導の実際</u></p> <p>第8回：スクールカウンセラーの実際と教師との連携</p> <p>第9回：これからの教育相談に求められること</p> <p>第10回：まとめ</p> <p>第11回：進路指導の現状</p> <p>第12回：進路指導の課題</p> <p>第13回：自己実現世代の進路指導</p> <p>第14回：学校現場でできる進路指導の実際</p> <p>第15回：まとめ</p> |

## 【授業内容】

(第7回：いじめ問題と指導の実際)

学校におけるいじめの実態およびその近年の傾向について、統計資料だけでなく、具体的な事例を交えながら紹介する。

その現状を踏まえたうえで、教師にできることは何かについて学生たちに考えさせる。その後、教員によるいじめへの対応例について紹介するが、いじられた側へのケアだけでなく、いじめた側への指導に重点を置いた支援の方法について、文献資料などを参照しながら解説する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山口大学・教育学部）

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 授業科目名                       | 発達心理学   |
| 教員名（専門分野）                   | 沖林 洋平 （発達心理学）   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分        | 必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ           | 教育の基礎理論に関する科目<br>・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）   |
| 単位数・受講者数                    | 2単位 ・ 110名  |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 1年生対象（後期）   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回：児童期の発達の考え方</p> <p>第2回：幼児から児童へ</p> <p>第3回：言葉の発達と教育</p> <p>第4回：数量的理解の発達と教育</p> <p>第5回：科学的認識の形成</p> <p>第6回：体験学習と表現力と感性の発達</p> <p>第7回：友人関係の広がり</p> <p>第8回：道徳性と価値観の発達</p> <p>第9回：自己の成長と人間関係</p> <p>第10回：障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び<br/>学習の過程の理解</p> <p>第11回：現代の家庭と子ども</p> <p>第12回：児童から思春期へ</p> <p><u>第13回：不適応行動の諸相</u></p> <p>第14回：子どもの問題行動をどうとらえるか</p> <p>第15回：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び<br/>学習の過程， 期末試験</p> |

## 【授業内容】

(第 13 回：不適応行動の諸相)

本授業は、講義名を発達心理学とし、人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、また障害のある児童生徒の発達や教育の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の理解を深めることを目的としている。

その中で、第 13 回に不適応行動の諸相として、現代の教育における問題の 1 つとして、不適応行動を取り上げ、その実態としていじめを取り上げる。具体的な授業における講義内容としては、いじめの定義、いじめの実態、いじめの 4 層構造論、ネットいじめなどがあげられる。また、教科書以外からも、文部科学省の Web で紹介されている内容などを紹介し、いじめの実態について学生の理解を促進することを狙っている。



## 【授業内容】

(第10回：教育社会学について)

教育社会学という学問から子ども問題について論じる方法をレクチャーする目的で、子ども問題の代表例として「いじめ」について論じた。

内容は、①問題のとらえ方（研究方法）、②いじめの世界的特徴、③いじめ問題の日本の特徴、④いじめの社会問題化（第1～第3の波を中心に）、⑤いじめの定義ドメイン拡張に伴う諸問題についてである。レポート課題は「文部科学省のいじめの定義の過不足について、自分の立場から論じなさい」であり、レポート評価を行った。



I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山口大学・教育学部）

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 授業科目名                       | 子ども理解演習  |
| 教員名（専門分野）                   | 田中 理絵（教育社会学）   |
| 教員の免許状取得のための<br>必修・選択の区分    | 必修・選択・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上<br>の位置づけ       | _____  |
| 単位数・受講者数                    | 2単位・32名  |
| 対象課程・対象学年                   | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 1年生対象（後期）  |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所<br>に下線） | <p>第1回：講義内容の説明と注意</p> <p>第2回：「萩科学の祭典」振り返り</p> <p>第3回：幼児を理解するということ</p> <p>第4回：授業をデザインする：授業計画と指導案づくりの意味</p> <p>第5回：環境教育の充実</p> <p><u>第6回：子ども問題のとらえ方①：いじめ問題の社会学</u></p> <p>第7回：幼・小連携</p> <p>第8回：小学校段階における外国語活動</p> <p>第9回：子ども問題のとらえ方②</p> <p>第10回：指導案に基づく模擬授業（発表）①</p> <p>第11回：指導案に基づく模擬授業（発表）②</p> <p>第12回：国際理解教育とは何か</p> <p>第13回：フォーラム「子どもたちの現状と課題」</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>第15回：まとめ</p> |

## 【授業内容】

(第6回：子ども問題のとらえ方①：いじめ問題の社会学)

いじめについて、①問題のとらえ方(研究方法)、②いじめの世界的特徴、③いじめ問題の日本の特徴、④いじめの社会問題化(第1～第3の波を中心に)、⑤いじめの定義ドメイン拡張に伴う諸問題について論じた。レポート課題は「文部科学省のいじめの定義の過不足について、自分の立場から論じなさい」であり、レポート評価を行った。

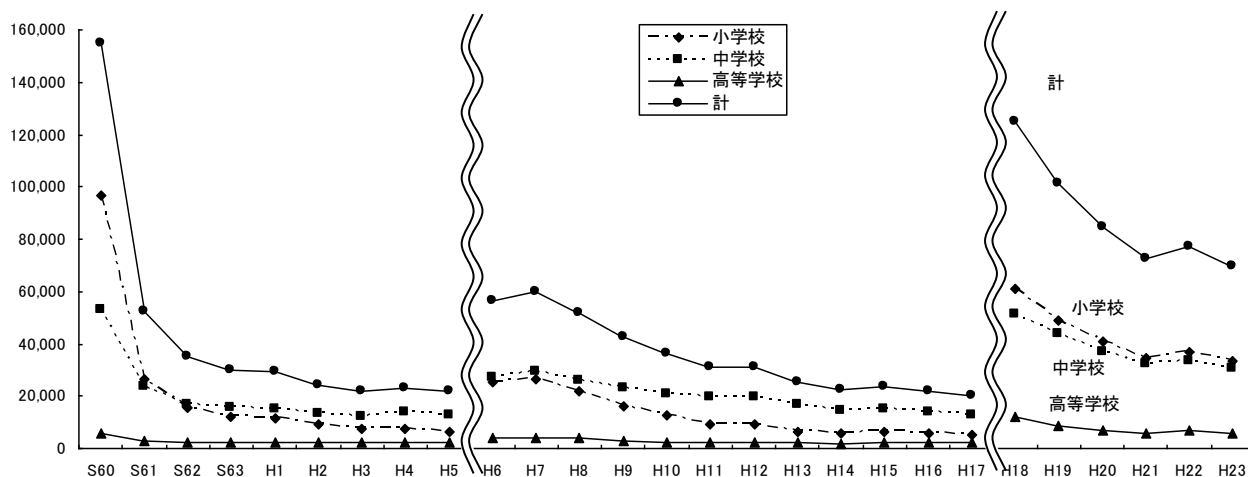


## 【授業内容】

(第2回：現代の学校をめぐる諸課題1 「学校と子どもをめぐる教育問題」から )

本演習は、現代的な学校課題・教育問題に関する実態・背景・原因について理解を深め、考察を行うことにより、問題解決に向けての素地を養成することを目的としたものである。その取り扱う教育問題の1つとして、「いじめ問題」も取り扱っている。このような経緯から、本講義では「いじめ」について情緒的・道徳的見地から考察するのではなく、「いじめ」をめぐる教育言説について、社会学的な見地で考察を深めていくことを重要視している。

該当する授業では、まず「いじめは増えているのか、減っているのか」という問いから始まった。



(文部科学省「いじめ発生件数の推移」)

ここでは、「いじめ発生件数」(1980年代以降)のグラフを示し、学生が気づいたことを取り上げる形で進めた。そこから、いじめは1980年代前半にかけてもっとも大きな山があり、そこから漸減傾向にあることや、2000年以降にかけてふたたび山が現れ、また漸減し、この度また増加する傾向にあること。

ということを指摘した。

この「漸減する」というところに着目させ、そこからさまざまな対応について考察させるとともに、「自分たちの教育体験からして、実感としていじめはなくなっていったか?」ということを行い、「いじめはなくなっていない感覚があるにもかかわらず、数字上減っていくのはなぜか」ということを考えさせた。ここから、いじめ件数を集計するうえでの「何をもちいていじめとするか」という見きわめの難しさ、対応の難しさを考えさせた。

こうしたことから、集計上減っているといっても、それは「いじめの定義」にもよるといって、1980年代に定義されていた「いじめ」と、近年定義されている「いじめ」には質的な差異があること。それによって、たとえそのとき定義された「いじめ」の量は減っていても、質の変わったいじめは表れる可能性は十分にあること、そして、現場にいる教員としては、つねにいじめの質は変化するものであり、すでに定義されている意味の「いじめ」だけを見るのではなく、状況的に「何がいじめか」を見きわめていく目を持つ必要があることを考えさせた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山口大学・教育学部）

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 授業科目名                   | 学校教育特別講義   |
| 教員名（専門分野）               | チーム制での運営 五島淑子（教授：生活健康科学）他、学部教員 8 人   |
| 教員の免許状取得のための必修・選択の区分    | 必修・選択・選択必修・その他（ ）  |
| 教育職員免許法施行規則上の位置づけ       | _____  |
| 単位数・受講者数                | 2 単位 ・ 77 名  |
| 対象課程・対象学年               | <u>学部</u> ・修士・教職大学院 3・4 年生対象（前期）   |
| 授業計画<br>（いじめに該当する箇所に下線） | <p>第 1 回：オリエンテーション、指導講話（学部長）</p> <p>第 2 回：外国語活動の実際①（外国語活動の進め方）</p> <p>第 3 回：外国語活動の実際②（外国語活動の進め方）</p> <p>第 4 回：人権教育の実際①（人権と人権教育）</p> <p>第 5 回：人権教育の実際②（子どもの権利、特殊性と普遍性）</p> <p>第 6 回：人権教育の実際③（人権教育に関する行政施策、方針）</p> <p><u>第 7 回：人権教育の実際④（学校における人権尊重の取組）</u></p> <p><u>第 8 回：人権教育の実際⑤（教員の言動と人権感覚）</u></p> <p>第 9 回：学校安全・学校保健の実際①（学校安全、学校事故）</p> <p>第 10 回：学校安全・学校保健の実際②（学校保健、相談対応）</p> <p>第 11 回：特別支援教育の実際①（特別支援教育の理念、歴史）</p> <p>第 12 回：特別支援教育の実際②（行動理解と支援）</p> <p>第 13 回：特別支援教育の実際③（行動分析とアセスメント）</p> <p>第 14 回：教職志望学生としての授業整理</p> <p>第 15 回：授業のまとめ、振り返り</p> |

## 【授業内容】

### (第7回：人権教育の実際④ 学校における人権尊重の取組)

#### 1 はじめに

児童生徒の人権が尊重され、一人ひとりが大切にされていることを実感できる学校は、児童生徒に安心感や自信を与える。このような人権尊重の学校をつくるためには、教職員が一体となって人権教育に取り組む体制を整えること、教職員自身が人権問題を正しく理解し、人権感覚を身につけるための研修を充実すること、児童生徒からの相談に適切に対応することが必要となる。

#### 2 学校全体で取り組むための体制づくり

- (1)人権教育の推進体制
- (2)人権教育の全体計画と年間指導計画
- (3)点検と評価

#### 3 小学校における人権教育の実際 (いじめや人間関係トラブルを含む)

#### 4 中学校における人権教育の実際 (いじめや人間関係トラブルを含む)

#### 5 教職員の人権教育研修

- (1)研修の必要性

#### 6 相談体制の整備による人権保護

- (1)児童生徒相談窓口の設置
- (2)児童生徒の相談後の対応

### (第8回：教壇に立つ私たち一人ひとりが考えたいこと (教員の言動と人権感覚))

#### 1 はじめに

人権問題の解決は、社会全体で取り組むべき課題であることを教えるべき。同時に個人の問題でもあり、次代を担う子どもの人権感覚を高めることが重要であること。

#### 2 あ、こんな所にゴミが

#### 3 身のまわりの人権問題 教壇に立つあなたは大丈夫か 子どもたちに胸を張れるか？

- ・老人や高齢の人を疎外するような雰囲気がないか
- ・女性を軽視する古い体質が残っていないか
- ・障害のある人に対して同情心のみで接し、人間として見下げていないか
- ・病気等に関する偏見やあやふやな知識で、その人を避けたりしていないか
- ・職業、職歴や学歴で人を判断する傾向がないか
- ・外国人に対して (外国人の間で) 拒否的な態度を取っていないか
- ・生まれや家柄を自慢したり、それで人を決めたり判断していないか
- ・学校、家庭、職場等で、序列や上下にこだわった言動をとっていないか
- ・迷信や不合理な慣習、非科学的な因習を根拠とした発言をしていないか
- ・いつのまにか人を傷つけたり、不快感を感じさせていることはないか
- ・人の失敗やまちがいを、不十分な面をあら探ししていないか
- ・常に、相手の気持ちや立場を考えた言動に心がけているか
- ・大学、学校、家庭、地域で、誰にでも、いつでも、明るく挨拶しているか
- ・電話や各場所での他人への応対は、常に、優しくていねいを心がけているか
- ・乱暴な言動、差別的な発言、いじめや周囲を驚かすようなことをしていないか
- ・差別やいじめを容認したり、差別やいじめの解消に消極的になったりしていないか